

## 第15回富山県入札監視委員会の審議の概要

開催日及び場所	平成23年1月14日（金） 県庁4階大会議室		
委員 (委員数：5) (出席数：5)	委員長 広瀬 慎一（富山県立大学短期大学部非常勤講師） 委員 尾畑 納子（富山国際大学現代社会学部教授） 委員 島谷 武志（弁護士） 委員 土開 由香（税理士） 委員 中村 和之（富山大学経済学部教授）		
次第	1 開会 2 入札・契約手続の運用状況の報告 ① 富山県の入札・契約制度について ② 入札・契約方式別発注工事の状況について ③ 一位不動入札、落札率100%入札及び平成22年度上半期落札率について ④ 平成22年度上半期低入札状況及び指名停止等の運用状況について 3 審議工事の抽出結果の報告 4 抽出事案の審議 5 審議結果の報告 6 閉会		
審議対象期間	平成22年度上半期（同時期に請負契約を締結した工事）		
抽出事案	10件（審議対象工事総件数958件）		
一般競争入札	3億円以上	1件	（事案1）富山県消防学校・防災拠点施設（仮称）広域訓練拠点施設（主・実火災・水難救助訓練）棟新築工事
	1億円以上	1件	（事案2）主要地方道砺波福光線 道路総合交付金 新福野橋上部工工事
	2千万円以上	3件	（事案3）神通川水系宮島川 河川総合交付金 護岸工工事 （事案4）滑川漁港海岸 老朽化対策護岸改良その1工事 （事案5）ほ場整備 江尻地区 ほ場整備第3工区工事
	指名競争入札	4件	（事案6）主要地方道高岡環状線道路改築路側工第5工区工事 （事案7）岩尾滝前田地区砂防総合交付金横ボーリング工事 （事案8）氷見漁港環境整備植栽工第1工区工事 （事案9）県営林道 道整備交付金 祖父岳線 大玉生工区（その1）舗装工事
随意契約	1件	（事案10）上市川第二発電所 軸受等修繕及び制御盤外据付工事	
委員からの意見及び質問並びに当該質問に対する回答	意見・質問		回答
	別紙のとおり		別紙のとおり
委員会としての意見	平成22年度上半期における建設工事に係る入札・契約については、概ね適正に行われていると判断する。		

別 紙

意見・質問	回 答
<p>○ 事案3の工事について、JRの規定に定める工事従事資格者の配置を入札参加資格条件としたのはなぜか。</p>	<p>施工箇所がJR高山本線に近接することから、工事の安全や列車の運行に支障のない施工を確保するため、線路に近接する工事の知識や経験を有する当該資格者の配置を条件とした。</p>
<p>○ 事案4の工事について、入札参加の意思を示した業者のうち辞退者が4者と多かったのはなぜか。</p>	<p>入札参加の意思を示したものの、同時期に施工箇所近辺で他の発注者から工事が発注されており、手持工事や配置技術者との関係も考慮のうえ辞退という判断に至ったものと推察される。</p>
<p>○ 事案8の工事では1回目及び2回目の入札では落札者が決まらなかったが、これは予定価格が低かったことが原因ではないか。</p>	<p>県の予定価格の設定は県の基準にしたがって適正に行っているが、当該工事では物価資料等（工事に使用する材料の価格を一般に公表したもの）に記載のない材料を使用するため、積算にあたっては見積を徴収している。この価格について、入札参加者の積算と乖離が生じたことも原因と考えられる。</p>
<p>○ 事案10の工事は発電機の修繕工事に関して、当該発電機の独自技術を有する業者との随意契約となっているが、予定価格はどのようにして積算したのか。</p>	<p>予定価格の設定は基準にしたがって適正に行っているが、特殊な機器等については業者から徴収した参考見積を基に、過去の類似の案件等も勘案しながら積算した。</p>
<p>○ 低入札価格調査の結果、失格とした案件があるが、どのような理由により失格としたのか。</p>	<p>低入札価格調査制度においては、県の担当部署において、当該入札で県の求める工事内容に適合した履行がされるか審査している。失格としたのは、工事に必要な資材が積算されていないことなどから、県が求める品質を確保できないおそれがあると判断したものである。</p>
<p>(その他)</p>	